

国語科の研究の概要

◇ 主題

仲間のコメントを基に表現を振り返る活動を通して、
よりよく伝わる話し方・聞き方を見いだしていく授業

◇ キーワード

スピーチ
相手意識
コメントマップ



石川 哲



◇ 育てたい生徒像

相手に伝えるための観点に基づいて自己評価したり、仲間から評価されたりしたことを生かし、試行しながら自分のよりよい話し方・聞き方を見いだすことができる生徒

1 単元名

お互いをもっとよく知ろう ～スピーチ～（第1学年）学校図書

2 目標

スピーチ発表やスピーチに関わる仲間の質問、意見交流、仲間のコメントをもとに表現を振り返る活動を通して、相手や状況に合わせてスピーチの仕方を工夫し、相手に伝わる内容（言葉の吟味）、構成、身振り手振りなどを実践、検討することができる。

3 具体的な手だて

1. 意味ある文脈での課題設定

学級の仲間に自分をよく知ってもらったり、逆に仲間をよく知ったりするためのスピーチの題材や発表はどのようなものがふさわしいか考えさせる場を設定する。

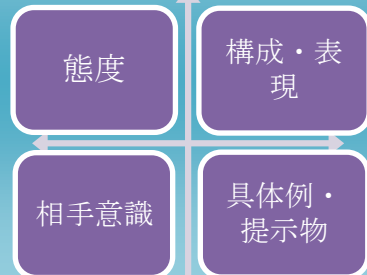
学年委員が発表した学級のよいところを紹介するスピーチを見てどこがよかったのかを評価する。



モデル

授業の実際

モデルのスピーチのよさを学級で共有しながら4つの観点到に分類する。



自分の伝えたいこと、仲間から聞きたいことを伝え合うための、スピーチの題材は何がいいかをグループで検討する。



交流

課題 - 自分の伝えたいことを聞き手によりよく伝えるためには何をどのように工夫すればよいだろうか。

題材検討



原稿作成

2. 対話を促す工夫

聞き手から話し手へ、伝えたいこと、印象的だった言葉、工夫や構成などの評価を交流する活動を組織する。



仲間のスピーチのよさを評価しながら、発表者に伝え、自分のスピーチと比べたり、提示物などの効果を検討したりすることで、よりよいスピーチにするためには何を工夫すればよいのかを考える。

3. メタ認知を促す工夫

仲間のコメントをもとに自分のスピーチを振り返り、よりよく相手に伝わる話し方をコメントマップにまとめる活動を組織する。



仲間が評価したコメントを各自が分類する。
↓
マップにして自分のスピーチの実際を俯瞰する。
↓
自分のスピーチのよさを実感し、よりよい話し方を見いだしていく。